

はじめに

プロフィールの構成と使い方

シカ捕獲プロフィール (シカ生息密度別背景色)

1. 署の基本情報

2. 捕獲の実行形態

3. 捕獲の方法、実施時期

4. 協定・協議会

5. 捕獲以外の被害対策

「プロフィールの背景色」

シカ生息密度別に下記の色で区別しています。

- 5頭/㎢未満 ■
- 5頭/㎢以上10頭/㎢未満 ■
- 10頭/㎢以上30頭/㎢未満 ■
- 30頭/㎢以上50頭/㎢未満 ■
- 50頭/㎢以上 ■

農林業被害があまり大きくならない生息密度は平均値で1～2頭/㎢、自然植生にあまり目立った影響がでない生息密度は平均値で3～5頭/㎢と言われています。

「1. 署の基本情報」

- ・協定相手方となり得る管内市町村数、協定の件数
- ・捕獲方法、わなの種類
- ・更新面積とシカによる森林被害面積等を基本情報として掲載しています。

【捕獲実行形態】

国有林野内における捕獲の実行形態について、以下のとおり区分しています。

① 職員実行

職員又は臨時雇用職員による捕獲

② 委託実行

委託事業による捕獲

③ わな貸出

市町村、猟友会及び森林管理署等が協定を締結し、森林管理署等が保有するわなを猟友会等に貸し出し、猟友会等が国有林野内において捕獲を実施

④ その他

ア 森林管理署等と市町村が協定を締結して、森林管理署等が国有林林道の除雪等を実施、市町村の捕獲実施隊等が捕獲を実施

イ 森林管理署等と猟友会が協定を締結して、林道ゲートの鍵を貸与し、猟友会が国有林野内で捕獲を実施

ウ 地域の協議会へ参画して、関係機関が連携して国有林野内で捕獲を実施

エ 市町村による有害捕獲、都道府県による捕獲等事業を国有林野内で実施

シカ捕獲プロフィール (北海道局) 根拠西部森林管理署

1. 署の基本情報

2. 捕獲の実行形態

3. 捕獲の方法、実施時期

4. 協定・協議会

5. 捕獲以外の被害対策

6. 捕獲回数とシカによる森林被害面積の推移

★森林被害対策のワンポイントアドバイス

プロフィールの構成と使い方

※1 令和2年度国営林野における鳥獣被害対策の実態調査レポート[7]予定と確認誌数からの分析結果表によるグループです。(※横断西部署のDは確認誌数较少、予算執行が欠のグループです)

※2 同レポートのDは主成分分析の主成分得点(RI補正対策による該因子の付随分析)によるタイプです。(※横断西部署のDは機動性高、最速性が高のタイプです)

※3 シカによる森林被害面積は、森林被害年報における実情面積です。

自署の国有林野の分布やシカの生息密度などの状況も踏まえつつ、**チェックリスト**（後述）も活用して、可能なものは積極的に自署の取組に取り入れていただき、更なる捕獲頭数増加に向けた取組をお願いします。

2

プロフィールの構成と使い方

④ 委託事業 ④ 基本情報・トピック 応応年度 ★目標達成の決め方 資料：国産林業推進事業（平成26年度）基本情報の作成資料（平成26年度版）	② 特任仕様年度での工夫 指導者の負担について食肉利用を前提とするものとし、ジビエ利用の可能性拡大に努める旨を記載しています。
④ 職員実行 ④ 基本情報・トピック わな講習受講者数 狩猟免許所持者数 実施期間の決定 共同実施者の有無 ★翌年度に工夫していること、ポイント ○工夫点 ・定期的な見回り・音響での作成 ・成果表を利用し、捕獲、取り逃がし情報、総捕の食費負担、是年度の時期に関する情報と共有 ④ 職員実行の流れ 実施期間・時期の決定 6月期は実効的な捕獲が得られ、10月期は集獲期になり捕獲が急激に減少することから実施しています。	② 安全対策 ・実施期間の前日に安全作業を周知徹底しています ・緊急連絡体制を作成しを自衛隊としています ・犬を飼っている参加者には反響や思わぬ動きをすることがあるため、予めし、職員、課長を連携操作できるように作成して使用しています。また、最悪な場合に取り持たせられるようにし、又見逃しを行っています。 ポルネット③ し雨天の場合はシカの捕獲が減少する傾向があります 改善策④ なし
実施場所の決定 わなを仕掛ける数連の別が得意なこと、また、捕獲種別の移動が得意なことから、林道や作業道に沿った法面の奥に設置しています。	ポルネット なし 改善策 なし
わなの設置 ・わなの種類、組み上げ式 ・設置費：100 ・設置場所：林道や作業道の法面にできた草藪 ・誘引剤の有無：牧草系の餌を使用し20分程度の設置	ポルネット し土、日の見回り体制 改善策 し土、日の見回りを徹底が実施
見回り ・平日は、専任職員がわなを管理して（1日1人）で対応 ・作業時間は4時間程度です。1日は既の既気象に準拠 ・捕獲種別の捕獲は、月に1頭程度で、総捕が必要な場合は集獲が対応しています。	ポルネット し土への確保音 し捕獲への負担 改善策 し土への確保音に合わせた捕獲 し捕獲への負担に合わせた捕獲
止めし ・電気（職員実行）、既（集獲実行に要請）	ポルネット し捕獲音 改善策 し捕獲音の活用 し捕獲音の活用
処理・運送 ・処理方法 ・運送方法 ・処理場所 ・運送場所	ポルネット し捕獲音 改善策 し捕獲音の活用 し捕獲音の活用

「職員実行」と「委託事業」

それぞれの捕獲事業の実施に当たって、事業の各段階で整理が必要な事項をチェックリスト形式等でまとめています。

今後、新たに取り組まれる署等におかれては、本ページを参考に整理すべき事項について確認をしてください。また、「IV巻末付録」に**チェックリスト**を掲載していますのでご活用ください。

【業務の流れ】

取組を進めるうえで、特にボトルネックとその改善策は注目すべきポイントです。職員実行や委託事業の実施に当たって、各署等ごとの生息密度や関係者などの実態は異なり、取組を進めていくうえで様々なハードル（ボトルネック）が出てくる可能性があります。そのような時は先行して取り組んでいるプロファイル掲載署の取組内容と改善策を参考にしてください。

「わな貸出」と「その他」

関係市町村や地元猟友会の皆さんと協定や協議会の形で行っている「わな貸出」や「林道ゲート貸与」などの取組（捕獲協力）について記載しています。これらの取組が国有林野における捕獲頭数のうち大きな割合を占めています。

これらの取組を参考にいただき、地域の関係者と連携して国有林野内でシカ捕獲を行う体制づくりを積極的に進めてください。

【協定、協議会関係図】

協定や協議会の形については、協定相手方や協議会参画者の意向も踏まえ、様々な形が想定されます。本ページを参考に、地域の実態に応じた連携の姿を模索し、森林管理署と協定、協議会関係者の双方がwinwinとなるような姿の構築に取り組んでください。

【★協定締結まで、協議会運営のボトルネック (課題)と改善策】

取組を進めるうえで、特にボトルネックとその改善策は注目すべきポイントです。協定締結や協議会運営に当たっては相手方の利害など様々なハードル（ボトルネック）が出てくる可能性があります。そのような時は先行して取り組んでいるプロファイル掲載署の取組内容と改善策を参考にしてください。

① その他(協定・協議会) ② 協定・協議会裏話

5 わな貸出(協定・協議会)

① 基本情報

市町村数 8
協定締結数 5
協定相手方
市、親友会、親友会支部
協議会参加数
協議会相手方

② 協定・協議会裏話

協定締結、協議会発足等にはいたるなかれ
当季からの働きかけによるものです。担当者が市及び親友会に出席し、協定の内容等を説明し、理解を促しました。
協定締結まで、協議会の運営で苦労した点
県内の親友会は、全庁制の自治体単位で支店が併っており、国産林野が所有する支店がない実態とのバランス(わな貸出の系統として国有林野内及び買立などないために)に苦労しました。
協定締結や協議会運営で工夫した点
一般の市において、両当事者の意見交換機会については、親友会支部の持ち回りで年度ごとのことでご理解を寄せています。

③ 協定・協議会関係図(一例)

【役割分担】
■ わなの管理 市、わなの活用・供給調整
● 親友会：販売
・ 計量室の設置 20,000円
・ 送料 送料 12,000円
・ 送料 送料 12,000円
・ 営業などの負担 くりわな、国産わな
【貸出調整】
・ くりわな150本(国産大樹)
・ くりわな30本+国産小樹2本(国産)
・ 国産小樹2本(国産)
・ くりわな30本(国産)
・ くりわなについては(国産)を確保した後補充
【国産わなは順次を記す】
・ 国産わな(国産)
・ 小口式等(国産)の国産(国産)
森林管理署のメリット
・ 国産林野の増進数の確認
・ 森林整備の計画
・ 補給力の把握
市町村のメリット
・ わなの手入れ等
・ 国産わな
・ わなを活用して地産地消の促進を図る
親友会のメリット
・ 計量室
・ わな購入費不足
わなの共同利用
(若からわな貸出)

★協定締結まで、協議会運営のボトルネック(課題)と改善策

ボトルネック
・ 国産林野の確保
・ 国産林野の確保
改善策
・ 一市において、国産林野を増進させるための取組

協定相手方、協議会参加者からの声

・ 地産の国産林野の増進が期待につながりました。
・ 国産林業基金に加え、わなの貸出しにより国産林業の経営が好転され、国産林業の経営意欲の向上につながりました。

前年度の国産(国産林業基金、国産林業基金)を更に伸ばすために予定していること
・ 国産林業基金が、現在の国産林業で固定されているため、国産林業を活性化しようとした。このため、国産林業の実施する事業(国産林業基金、国産林業基金等)が近隣に計画された場合、他の国産への移動がスムーズになると考えています。